

令和8年度 第2回上落合小学校 学校運営協議会 議事録

○日時:8月28日(金) 14:15~15:30

○場 所:上落合小学校 教室(4-1, 5-2, 6-1, 6-2)

○次 第:

【第1部】 1 校長挨拶 2 開会宣言(会長)

3 学校より(教頭、教務、特別活動主任)

【第2部】 4 自己紹介

5 熟議「子どもたちが自ら挑戦するためには何が必要か」

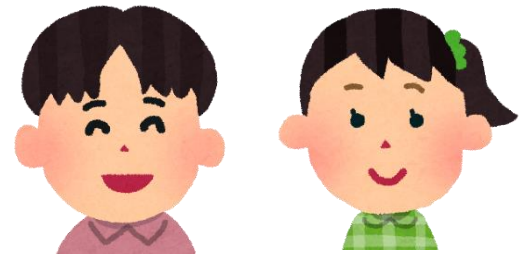
6 感想発表 7 意見の申出

8 事務連絡(教頭) 9 閉会宣言(副会長)

【第3部】 10 いじめ対策委員会 11 事務連絡



2学期の主な学校行事計画について



①土曜授業日の実施

- ・10月24日(土) 運動会
- ・11月28日(土) 午後～PTA主催かみっこフェスあり

②開校100周年記念式典・記念演奏会

- ・12月9日(水) PM @大宮ソニックシティ

③個人面談週間の実施(希望者のみ)

- ・12月2日、3日、4日、7日

※面談を通して、2学期の子どもの様子を伝えることで、2学期の通知表、「学習や生活の様子」所見欄に代える。

2学期の主な学校行事計画について



④運動会

- ・10月24日(土)上落合学校で実施
- ・10月27日(火)予備日① 上落合小学校で実施
- ・10月28日(水)予備日② 上落合小学校で実施

⑤校内音楽会

- ・11月27日(金)校内音楽会
- ・11月28日(土)公開音楽会

⑥校外学習

- | | |
|-----------|-------------------------|
| 6年校外学習 | 9月8日(火)@国会、江戸東京博物館 |
| 5年館岩自然の教室 | 10月6日(火)～10月8日(木) |
| 3年校外学習 | 11月17日(火)@岩槻人形博物館、グリコピア |
| 1年遠足 | 11月9日(月)@東武動物公園 |
| 5年校外学習 | 12月1日(火)@防災学習センター、中島紺屋 |

2学期の主な学校行事計画について

⑦就学時健康診断

- ・11月10日(火) くり上げ日課2時間 下校10時30分頃

⑧保育者体験研修

- ・10月13日(火)、14日(水)、20日(火)、21日(水)

⑨小・中学校合同音楽会

- ・11月18日(水) 6年生の1学級が参加

⑩授業研究会

- ・11月12日(木) 1年研究授業
- ・11月20日(金) 3年研究授業
- ・11月19日(木) G・S市教研研究発表会
- ・1月26日(火) さいたま市委嘱研究発表会

令和8年度学校評価について



●基本方針（R7と同様）

- ・成果と課題を明確にし、結果を公表することで、説明責任を果たす。
- ・教育活動の成果検証を行い、次年度の工夫改善に生かす。
- ・保護者や地域住民からの理解と参画を得て、学校、地域、家庭の連携協力による学校づくりを推進する。

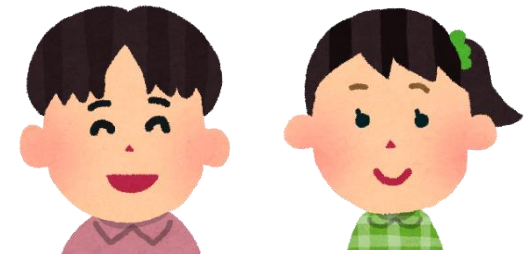
●学校運営協議会委員の役割

- ・集計結果から、学校評価を行う。

●アンケート内容

- ・学校運営協議会の熟議や、学校課題研究に関連する質問項目を追加

2学期の主な学校行事について



⑥こどもまつり（縦割り班活動の充実）

・9月25日（金）1・2校時

※準備：7月10日、9月3日、17日のにじいろタイム

・にじいろタイムの活動クラスで、お店を1つ出店。

・活動クラス内で、店番と遊びに分かれて活動

異学年交流において、協力し合って1つのものを創り上げる活動を通して、仲を深め、楽しく活動できるようにする。

児童の意見や希望をまつりの内容に反映させることで、**児童の自主性や実践的な活動を促進**する。



100周年へ向けた、児童主体の活動の充実

子どもたちが自ら挑戦するためには何が必要か？
学校・地域・家庭で何ができるか？

<本日のゴール>

○学校の教育活動を進めている教職員と、学校運営協議会委員が、**互いを知る機会**とする。

○上落合小の児童について**熟議を通して情報を共有し合い、3者ができることを考える**

【熟議テーマ】

子どもたちが自ら挑戦するためには何が必要か Aグループ

(1) 学校

やってみたいと思える機会、失敗しても大丈夫という安心感を作る

- ・ 1年間の行事を通して、1人1個の役割をやってもらう
リーダーとして、下の学年の前に立つ場面を
- ・ 人前で言うセリフを言う機会をいろんな児童ができるようにする。
年間で決まったメンバーになりがち
- ・ クラスのために頑張る仕事の約束（～学期に1回以上）を作る

(2) 家庭・地域

児童がもっとも安心できる場所

- ・ 先回りをしない 親のがまん
忘れ物を自分の責任にする、人のせいにさせない
- ・ 安心してチャレンジする環境をつくる
- ・ 家庭ではあまり時間がない
- ・ 親と離れて、子どもがうごく機会を増やす
おまつりなどの地域のイベントへ参画



【熟議テーマ】

子どもたちが自ら挑戦するためには何が必要か Bグループ

(1) 学校

- ・全体での挑戦が難しい→皆で挑戦する機会をつくりたい。
- ・授業内で挑戦させるために、色々な体験を通して新しいことを知る。
→挑戦をしたいと思えるような機会を与える。
- ・低学年：挑戦するための手段、方法を伝える。
高学年：そのベースを基に挑戦する機会と時間をつくっていく。
- ・団体競技をやってこなかった。団体競技でできる経験を他の活動で実施する。
→皆でチャレンジする機会の設定（100周年や、かみっこフェスなど）

(2) 家庭・地域

- ・挑戦する時間があるとよい。
 - ・子どもが自分で考える時間を作るという前回の協議結果に付け加え、場を作って放置する。
→自分が挑戦しやり遂げるのを見て支える
- ・何か型を教えないと、発想が出てこない。挑戦でもきっかけが必要なのでは

【結論】

- ・低学年から、型を作ったり機会を与えたりして、小さな挑戦をスモールステップで積み重ねる。
高学年になるにつれて、自分から挑戦する機会を見つけられるように、支えて見守ってあげられるようにする。

【熟議テーマ】

子どもたちが自ら挑戦するためには何が必要か Cグループ

(1) 学校

- ・ダメなことはきちんと指導していく。
- ・子どもが自分で考えて、自分でやらせることが大事。
- ・色々な経験を積ませる。→挑戦する土台づくり
- ・挑戦したことをどう次につなげるかが課題
- ・選択できる場面を設ける。→自分で選び、自分で考える力をつける

(2) 家庭・地域

- ・とことん「遊びこませる」ことが大事→次のステップ
- ・達成感の積み重ね→認められる
- ・頑張っている姿を褒める

【熟議テーマ】

子どもたちが自ら挑戦するためには何が必要か Dグループ

(1) 学校

- ・小さな失敗の積み重ね→新しい気付き
- ・成功体験を積んで褒める
- ・集団としてみんなで挑戦できる場を作る

(2) 家庭・地域

- ・実態として家庭の方針や安全対策とのバランスのずれで難しさがある。
- ・何を家庭で体験しているのか分からない。

ちょっとした好きやきっかけ作りをしていく。

◎体験的な活動やきっかけ作り、選択肢を与える。

